



2018年10月7日(日) 11:00

はじめに: スナール室内楽シリーズ

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel. 073-436-9500

- ・南葵音楽文庫所蔵の”スナール室内楽シリーズ”から興味深い作品を紹介
- ・今回のテーマ: ピアノの詩人モンポウの初期作品

## 1. ピアノの詩人モンポウ

(Frederic Mompou 1893-1987)

- ・スペイン・カタルーニャ地方のバルセロナに生まれる。
- ・「ピアノの詩人」「スペインのサティ」と呼ばれる。  
1911-13年: パリ留学。ドビュッシー、サティ、ラヴェルの影響を受ける。  
1921-41年: パリを本拠地に活躍。  
この時期にスナールから複数の作品を出版。
- ・内気で寡黙な音楽家
- ・主にピアノ曲と歌曲を作曲  
ごく短い/音数が少ない/形式はとてもシンプル



▲ モンポウ。1920年頃。

<http://www.kazu-classicalguitar.co.uk/blog/ja/essays/mompou/frederic-federico-mompou-1-recomencament-primitivism-bell-sounds>

## 2. ピアノ曲《子どもの情景》 *Scènes d'enfants*

- ・モンポウの代表作のひとつ。1915年～18年に作曲。  
スナール室内楽シリーズの一環として出版 (1921年第1期 ピアノ曲編)
- ・親友の作曲家ブランカフォルト (Manuel Blancafort 1897-1987) に献呈。
- ・ポーランド出身の作曲家タンスマン (Alexandre Tansman 1897-1986) により、1936年に管弦楽化。  
Cf. 音楽の “エコール・ド・パリ”



◀ ブランカフォルト(左) とモンポウ

<https://www.fotografiacatalunya.cat/ca/cataleg/imatges/5941573f7f327139857d216f>

## 子どもの情景 *Scènes d'enfants*

1. 通りに聞こえる叫び *Cris dans la rue*
2. 海辺の遊び *Jeux sur la plage*
3. 遊び *Jeu*
4. 遊び *Jeu*
3. 庭の少女たち *Jeunes filles au jardin*

\* 2, 3, 4 をまとめて〈遊び I, II, III〉と表記する資料もある。

- 第1曲〈通りに聞こえる叫び〉：曲の三つの要素
  - a. 叫び (の繰り返し) [譜例]
  - b. 街角に聞こえる唄
  - c. カタルーニャ民謡「商人の娘」*Filla del Marxant*
    - cf. リョベートによるギター独奏用編曲



▲ 〈通りに聞こえる叫び〉 (《子供の情景》第1曲, 1915-18)

- 素朴な音楽家  
プリミティヴィスト (素朴派?) を自称  
単純なフレーズの繰り返し / 子どもらしい音楽

### 3. 隠者の庵

- モンポウの楽譜の表紙に描かれた、傾いた家: 「僧院」。  
モンポウのトレードマーク。ブランカフォルトとともに作曲にふけた場所。  
描いたのはモンポウの兄ホセ(ジョゼップ)



◀ モンポウ《子どもの情景》楽譜表紙より

- ・ ジョゼップ・モンポウ Jose(Josep) Mompou (1888-1968)。  
画家、版画家。フォーヴィスムの影響を受ける。弟を経済的に援助。



▲ モンポウの兄ジョゼップ

<http://www.gelonchviladegut.com/es/autor/josep-mompou/>



▲ ジョゼップの描いた絵のひとつ

<https://pt.wahooart.com/a55a04/w.nsf/O/BRUE-8LJ972>

#### 4. カタルーニャの風景と鐘

- ・ スペイン音楽の歴史  
先覚者パドレル→アルベニス、グラナドス、ファリャ  
アンダルシア主義(アルハンブラ宮殿、闘牛、ジプシー、フラメンコ、カルメン etc.)  
↓  
新しい潮流 1880年～1900年頃に生まれた世代の作曲家たち  
エスプラ(レバンテ)、モンポウ(カタルーニャ)、ロドリーゴ(カスティーリャ) etc.
- ・ モンポウが描く“音の風景”  
カタルーニャ民謡  
生まれ故郷バルセロナ(海岸地区)の物音(音の風景)

#### 5. 《街外れ》Suburbis

- ・ モンポウ初期のピアノ曲集。1916-17年に作曲。  
バルセロナ周辺の風景を音で描く。  
スナール室内楽シリーズの一環として出版。  
(1922年第1期 ピアノ曲編)  
1936年にマニユエル・ロザンタール(Manuel Rosenthal 1904-2003)により管弦楽化。

- 第1曲 〈通り、ギター弾き、老いぼれ馬〉  
El carrer, el guitarriste i el vell cavall  
第2曲 〈ジプシー I〉 Gitanes I  
第3曲 〈ジプシー II〉 Gitanes II  
第4曲 〈目の見えない少女〉 La cegueta  
第5曲 〈手回しオルガンを持つ男〉 L'home de l'aristó



バルセロナのモンポウ

[https://elpais.com/ccaa/2012/12/10/catalunya/1355174225\\_045270.html](https://elpais.com/ccaa/2012/12/10/catalunya/1355174225_045270.html)

- 第4曲〈目の見えない少女〉
  - 1) 単純な、同じメロディの繰り返し a- b- a'-b'-a''
  - 2) 音色の変化
    - 前半(a-b): 両手がオクターヴ隔てて同じメロディを弾く
    - 後半(a'-b'-a''): 同じメロディが不思議な響き(不協和音)に包まれる

→ この“不思議な響き”は、どこから来たのか？

- 鐘の音楽

モンポウの母方の実家(Maison Dencausse)は鐘作りの老舗。音がよいとの定評。  
音の原体験としての「鐘」：モンポウは鐘の音が鳴り響く中で育った。  
モンポウの音楽の不思議な響き：鐘の響き&バルセロナの喧噪



<http://www.kazu-classicalguitar.co.uk/blog/ja/essays/mompou/federic-federico-mompou-1-recomencament-primitivism-bell-sounds>

おわりに……



<http://bibliotecas.unileon.es/partitULE/2018/04/30/federico-mompou-1893-1987-la-belleza-de-la-musica-callada/>

## ○ 主要参考文献

クララ・ジャネス『ひそやかな音楽—フェデリコ・モンポウ 生涯と作品』

熊本マリ訳、東京音楽社、1993年。

ヴラディミール・ジャンケレヴィッチ『遙かなる現前 アルベニス、セヴラック、モンポウ』

近藤秀樹訳、春秋社、2002年。

濱田滋郎『スペイン音楽の楽しみ』音楽之友社、1982年。

Mompou: Complete Piano Works, Federico Mompou (piano), Brilliant Classics, 2001.